

事務事業名		越喜来簡易水道施設整備事業			☒ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間		予算科目				
	施策名	良好な生活空間の創造					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	上水道・簡易水道の整備					16	01	01	02	01
根拠法令					☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】  25 年度 ～ 27 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
所属	部課名	都市整備部簡易水道事業所									
	課長名	中井 吉隆									
	係 名	簡易水道係	電話	0192-27-3111							
	担当者	館下 睦章	内線	202							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
越喜来簡易水道は、昭和45年度に創設され、計画1日最大給水量730m ³ /日の能力に施設整備されているが、生活形態の変化により生活用水量の増加が見られ、近年、計画給水量を大きく上回る状況になっており、施設能力の限界近くで運転しているため維持管理に苦慮している。また、現在の水源は山間を流れる河川(浦浜川)から取水しているが、上流部が野生鹿の生息地となっており、感染症腸炎の病原体であるクリプトスポリジウム等による汚染が心配される。 これらの問題を解消するため、平成19年度に計画1日最大給水量1,200m ³ /日の変更認可を受け、平成23年度から工事を着手する予定としていたが、震災のため中断していた。平成25年度より事業に着手し、施設の抜本改良することにより、良質な水道水の安定供給を図る。なお、集落環境整備事業の導入により、平成25年度は、修正設計業務と、機械設備・電気設備・土木工事を債務負担行為により実施。平成26年度は債務負担行為による機械設備・電気設備・土木工事と、ポンプ室更新実施設計業務を実施する予定である。平成27年度はポンプ室更新工事と浄水場土木工事を実施する予定である。					総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金				
							都道府県支出金	487,400			
							地方債	374,900			
							その他	112,787			
							事業費計 (A)	975,087			
							人件費				
正規職員従事人数	2										
延べ業務時間	4,800										
人件費計 (B)	19,200										
トータルコスト(A)+(B)	994,287										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
なし		ア 浄水場・ポンプ場設備更新	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	
浄水場機械設備・浄水場電気設備・浄水場土木工事		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
越喜来地区の住民(浦嶺を除く)		名称	
		単位	
		カ 給水区域内人口(計画給水区域内人口)	
		キ	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
増加する水需要に対し安定した供給をする。		名称	
		単位	
		サ 給水人口	
		シ 計画1日最大給水量	
		ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
住みやすい生活環境になる。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費内訳	単位						
		千円						
事業費	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円			125,000	317,900	44,500	
	地方債	千円			12,500	317,900	44,500	
	その他	千円			112,509	278		
	一般財源	千円						
	事業費計(A)	千円	0	0	250,009	636,078	89,000	0
人件費	正規職員従事人数	人			2	2	2	
	延べ業務時間	時間			1,600	1,600	1,600	
	人件費計(B)	千円	0	0	6,400	6,400	6,400	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	256,409	642,478	95,400	0
⑤活動指標		箇所			1	1	3	
⑥対象指標		人			1,933	1,922	1,911	
⑦成果指標		人			1,912	1,901	1,890	
		m3/日			730	730	1,200	

事務事業ID	0710	事務事業名	越喜来簡易水道施設整備事業
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 施設の老朽化が進んできたこと及び、水需要が増加し、計画給水量に対して現況の1日最大給水量が大きく上回り、緩速ろ過池の予備池の使用やろ過速度を早くするなど、施設能力の限界近くで運転しており、施設の維持管理に苦慮するようになったため。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 過去10年間の人口を見ると年々減少傾向にあることから、給水人口も減少傾向にあると推定されるが、生活形態の変化により1人当たりの生活用水量は増加している。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ この事業は合併建設計画掲載事業であり、地域住民より早期完成を要望されている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 簡易水道施設の整備は、良質な水を安定的に供給することにつながり、その結果、潤いに満ちた快適な都市環境の創造に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 上水道の整備は、水道法で定められた地方公共団体の義務であり妥当である。	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 整備の対象が現在の給水区域内人口を対象としていることから、拡大・縮小の余地はない。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 給水普及率は現在90.5%であり、住民の水道への依存度は高いが、すべての住民に良質な水を供給するために、さらに普及率を高めていく必要がある。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事業を廃止・休止すれば、施設の老朽化がさらに進行し、安定的な水道の供給ができなくなり、生活環境の悪化につながる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ライフラインに関わる極めて公共性の高い事業であるため他に類似事業はなく、現状では他の方法は考えられない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を大幅に削減することは難しい。ただし、これまでは全額簡易水道債により事業を行ってきたが、水産課の補助事業である漁業集落環境整備事業を導入したことにより市負担が軽減される。(補助率50%)	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 施設整備に必要な設計業務等及び工事管理・監督業務は専門業者への委託で対応している。それ以外の工事発注業務等は市の必要最小限の担当者で対応していることから削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 簡易水道使用者からは給水負担金及び水道料金を徴収しており、負担は適正である。	

事務事業ID	0710	事務事業名	越喜来簡易水道施設整備事業
--------	------	-------	---------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	今年度は、浄水場修正設計と平成25年度、平成26年度2か年に渡る浄水場の機械設備、電気設備、土木工事を発注し順調に進んでいる。																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 本事業は、良質で安定した水道水の供給により、快適な都市環境の整備のために引き続きすすめていく必要があるが、安心・安全な水を住民によりアピールし、普及率を拡大していくことが必要である。また、市負担を軽減し効率的な整備を図るため、引き続き補助事業である漁業集落環境整備事業を活用する。		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	簡易水道事業所長 中井 吉隆

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 施設整備により、安全で安定した水道水を供給し、普及率の拡大に努める必要がある。																					
(2) 2次評価者としての評価結果		(5) 改革・改善による期待成果																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)																							
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 快適な生活環境に資するため、引き続き事業を推進し早期完成を目指す。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項

--